

推薦の言葉

結論から先に述べると、本書は皆さんにとって今後の一生の宝となる1冊になることに間違いありません。

研修医として最初に立ちはだかる関門「当直コールへの対応」。それぞれのコールに対して適切に対応できるかどうかは、その後の専門分野にかかわらず臨床医として非常に重要なスキルの1つです。そして当直コールへの対応力は研修医時代に決まると言っても過言ではありません。さまざまなコールをくり返し経験することはもちろん重要ですが、それぞれの対応について自分のなかで系統立てて整理し、いつでも取り出せるようにすることがさらに重要です。

聖路加国際病院では、この当直コールへの対応に関して翌朝に病棟長やチーフレジデントからフィードバックをもらい、次の当直にいかせるように振り返る取り組みがあります。緊急性のあるものからないものまで、そして一度に複数のコールを受けることも稀ではありません。そんななか、「優先度を意識して迅速かつ正確に」対応できるようになるために、本書では「病棟へダッシュ！」「小走りですぐ病棟へ！」「歩いて病棟へ！」とキャッチャーな章立てで緊急性を軸とした当直コールへの対応について細かく記述されています。本書で登場する研修医とチーフレジデントのやりとりの様子は、あたかも自分が研修医時代にもどって、チーフレジデントとの振り返りをしているかのような錯覚に陥る程、忠実に現場の臨場感が再現されています。網羅的かつ優先度の高いものから学べる目次・構成の工夫により、皆さんは一から読み進めていくごとに、さまざまな症状・疾患に確実に自信をもって対応することができるようになります。さらには、ルーチン対応で終わらず、より質の高い対応を提供するためのポイントも示されているため、本書を理解することで確実に周囲の研修医と差がつくことになるでしょう。

単なる網羅的な教科書ではなく読者にとってすっきりわかりやすく再現できているのは、藤野先生のこれまでの病棟長、チーフレジデントとして熱い情熱をもって尽力してきた研修医教育の経験、さらには自身の豊富な臨床力と一つひとつの事項に対して細かく正確に分析する能力とが合わさってのものだと確信しています。自分も藤野先生の後輩だったらどんなに幸せだろうと思いますが、皆さんにはぜひ本書の至るところに散りばめられた藤野先生のパールを1つでも多く習得できるように、一文逃さず隅から隅まで熟読することを強くお勧めします。

2023年1月

聖路加国際病院 感染症科 医員
テキサス大学ヒューストン校・MDアンダーソンがんセンター
感染症科 チーフフェロー

松尾 貴公